

宇土半島の突端に聳える半島最高の山、三角岳に登るコースで、有明海側の海水浴場で知られる大田尾と、八代海側の三角港とを結ぶコースです。

三角岳頂上からの景観は、有明海、雲仙、天草諸島の眺望を展開する360度の大パノラマが楽しめます。又秋は三角ミカンで知られるミカン園が眼下にひろがり、途中、雲龍台、天翔台の名称がある所は展望開けるところで、無理なく歩を進べば、家族で楽しめる日帰りのコースです。

●あし

- 熊本交通センター 産交バス(長浜経由) 大田尾 70分
- 熊本駅 国鉄三角線 三角駅 50分

●みどころ

三角岳頂上からの展望は、海と島と遠望の山々が眼下に360度展開する。

遙か洋上に浮かぶ島々や、白く航跡をのこして進む風景は、うっとりする位しばし浴世を忘れさせる程である。

コースの周囲は、樹林が繁茂し、季節の小鳥がさえずり、秋にはミカンが山腹を黄色に埋めつくし、味覚を楽しむこともできる。登山口の三角港は現在東港として交通の要衝にあたるが、三角港の最初の港西港は、明治17年から4年間かけて建設された西洋風切石積の埠頭岸壁に明治築港の面影を残し、現在は九州海技学院となっている旧宇土郡役所で、明治洋風建築の典型で、港情緒と相まってエキゾチックな雰囲気をかもしている。

●山岳・展望地

三角岳(406m) 雲龍台(250m) 天翔台(226m)

●樹木

カシ、クスギ、ナラ、モチ、ヤマモモ、スギ、ヒノキ

●野鳥

ホホジロ、メジロ、ウグイス、ホトトギス、シジュウカラ、コジュケイ

●史跡

旧宇土郡役所(九州海技学院) 旧三角港の設計監督者オランダ人、ルーエンホルスト・ムルデルの設計になる明治洋風建築。

三角西港 オランダ人ルーエンホルトス、ムルデルの設計監督による石材使用の明治築港の貴重な資料。

細川別邸 肥後藩主細川家のお休み所の庭園が当時のまゝのこっている。

矢崎城(郡浦城) 天正8年島津勢により落城したが一族郎党残らず討死の悲しい物語がある。

●やど

- 旅館 43軒
- ホテル 1軒
- 金術温泉 1軒
- 問合せ先 三角町役場企画商工観光課
☎(09645)3-1111

●利用の心得

- 事前にコースを充分検討し余裕のあるスケジュールを組みましょう。
- 必ずグループで、装備は完全にしてから出かけましょう。
- 歩行中は禁煙です。「タバコ」は必ず喫煙所で吸いましょう。
- 植物や鉱物を採ったり傷つけたりしないようにしましょう。
- 歩道施設、標識等を大切にしましょう。
- 歩道以外の山やはたけに入らないようにしましょう。
- カン、ビン等は持ち帰りましょう。



九州自然歩道 見えてある記

三角岳登山コース

